

歴史文化クラブ 12月研修会

菅原町周辺の歴史探訪と 奈文研の見学

古川 祐司

◆12月17日(日) 快晴、気温8度、上々の歴史日和である。9時、22名が尼ヶ辻駅に集まる。

秋篠川の西側の丘陵地は、菅原と呼ばれ、5世紀の頃から野見宿祢を祖とする土師氏の一族の居地だった。今回は、日本書紀に「菅原伏見陵」と記される垂仁天皇陵、「菅原寺(喜光寺)」、「菅原天満宮」、「菅原東埴輪窯遺跡」を探訪する。

冒頭、地元の松本武彦さんが「尼ヶ辻」の由来を解説される。鑑真和上が唐招提寺の用地を探してここを訪れ「この壤(つち)は甘い」と言われたので「甘ヶ土」。また、聖武天皇の学問所「弘文院」がここにあり、後に尼寺(興福院)となったので「尼ヶ辻」の地名が生まれたとも。



出発して20分、垂仁天皇陵をへて喜光寺に着く。高次喜勝副住職にお迎えいただいて、無病息災と安全を祈願する。その後、暖房の効いた講堂で、喜光寺の由来と行基菩薩、菅原天満宮と土師氏などの解説がある。その名調子に一同感心する。



菅原神社(菅原天満宮)は喜光寺の隣にある。土師氏の一族は8世紀の終わりに宮廷貴族に加えられ「菅原氏」、「秋篠氏」、「大枝氏(後の大江氏)」と改姓する。平安時代、宇多天皇、醍醐天皇に重用され右大臣に登った菅原道真は、この地で生まれたと言われ、「産湯の池」もある。この伝承の真偽を議論しながら、300m東に移動。土師氏の痕跡「菅原東埴輪窯跡遺跡」(6世紀)を検分する。

ここから2km北上して西大寺へ着く。今回は、奥の院にある興正菩薩の巨大な五輪塔と西大寺鎮守の八幡神社を見学する。

西大寺中興の祖とされる興正菩薩・叡尊は鎌倉時代の人、弟子の忍性と共に貧者や病人の救済に力を注いだ。寺域にある八幡神社は、当時高価な菓だった茶を民衆に振舞ったのが大茶盛の起源となったといわれる。

これで午前の部が終了し、12時解散する。

◆13時、午後の部 奈文研資料館に36名が集合。渡辺副所長のご案内で資料展示館を見学。1959年の着手以来60年にわたる発掘調査の歴史や出土品の展示を詳しく解説していただく。

講演会。会場は大型電子スクリーンをU型に座席が囲む本格的なセミナー会場である。



テーマは

「特別史跡平城宮跡の発掘調査—その成果と課題」
講師の渡辺晃宏先生は、平城宮を中心とする都城研究に携わり、現在は研究所副所長。木簡研究の分野では我国随一の権威である。

今回の講演は30ページ60コマに及ぶ資料を映写しながら、平城宮発掘調査の成果を丁寧に解説される。

- ・第一次と第二次大極殿は位置と機能の変遷。
- ・大極殿復元の裏付けとなった発掘データなどなど興味深い話題に、大幅に時間超過して終了する。ご多忙のなか、時間をさいていただいた渡辺晃宏先生に心からお礼を申し上げて、研修会は終了。

年末恒例の地元史の探訪は、毎回工夫を重ねていよいよ佳境に入ってきた。来年もさらに充実した企画にしていきたいものである。

